

## 歌詞を中心とした詩教育の可能性（A班）

### ♪研究テーマについて

現代の中・高等学校の国語教育について、小説・評論の比重が大きく詩があまり扱われていない現状がたびたび指摘されている。皆さんの中にも、「学生時代に詩の授業を受けたことがない」という人は少なくはないのではないか。「詩との出逢いの場」が少ないために、学習者が詩に対する苦手意識を抱いてしまっている。しかし、本来詩とは言葉の自由な広がりを見せる魅力的な世界であり、それを楽しみ学ぶことは学習者の豊かな言語能力・言語観の育成につながるはずだ。

そこで、注目したのが「歌詞」である。詩は高尚で近寄りがたいイメージがあるかもしれないが、実は学習者にとって身近で興味・関心のある「歌詞」というのも一つの「詩」だといえる。この歌詞を「詩との出逢いの場」として、言葉の奥深さを味わう詩教育をデザインすることが本研究のテーマである。

### ♪活動について

#### 【メンバー】

- 全体：15名（3年生⑤、2年生⑦、1年生③）
- A班：7名（3年生②、2年生④、1年生①）

#### 【活動内容】

#### ○第一回（10月）－ 歌詞の鑑賞会

まずは何気なく聞いていた歌詞をじっくり考えることから。第一回では各々が自由に歌詞の一つを選んで解釈し、全体で共有・議論した。それぞれ自分が好きなアーティストの曲の歌詞を取り上げ、そのストーリーや主題について深く考察することができていた。議論では様々な解釈が飛び交い、違った視点から歌詞を捉えることができ面白かった。好きな音楽の話も交えつつ、楽しく活発な活動ができた。



#### ○第二回（12月）－ 詩教育に関する講話 / 歌詞の教材開発

第二回から、少しずつ教育の観点から歌詞を考えた。12月頭に、同コース教授の山本先生に「詩教育に関する講話」をいただいた。詩の面白さやそれを学習者に気づかせるためのコツ、詩教育として歌詞を扱う際の留意点などについてお話しいただき、非常に有意義な時間となった。

そして講話での学びを生かして、好きな歌詞を解釈しつつその教材的価値について考えた。多くのメンバーが第一回とは別の歌詞を挙げ、それをどう解釈するのか、どう学習者に教えるのか、そのことでどのような資質・能力が育成できるのかを考察した。

#### ○第3回（2月）－ 歌詞を用いた授業の構想

最終回となる第三回では、実際に歌詞を用いた授業の全体計画を作成した。今回も各自が好きな歌詞を選んで解釈し、それを中心とした2～4時間の授業の活動内容と全体の流れを構想した。例えば、一つ

の歌詞をじっくり解釈する授業計画があれば、他の詩や文学作品との合わせ読みを行うもの、歌詞を基に新たな話題で話し合ったり書いたりするという言語活動に重点を置いたもの、アンソロジー作成を軸にした単元学習もあり、多様な授業の在り方を考えることができた。議論の中でそれぞれ改善点も見つけることができた。全体計画に関しては、実際に教育実習で使用した様式を改変したものに沿って記入したため、実習を控える1・2年生にとって良い経験になったのではないか。

**\*活動で扱った楽曲例（アーティスト名）**

歌姫は海で（クジラ夜の街）	シューゲイザースピーカー（UNISON SQUARE GARDEN）
お人好しかメレオン（UNISON SQUARE GARDEN）	常夜燈（PEOPLE1）
カオスが極まる（UNISON SQUARE GARDEN）	虎（ハンバートハンバート）
眼福（米津玄師）	ビンテージ（Official 髭男dism）
栞（クリープハイブ）	R.i.P.（BUMP OF CHICKEN）
シャルル（バルーン）	What's Going On?（Official 髭男dism）



**♪参加者の声**

- ・授業よりも気楽に取り組めて楽しかった。
- ・好きな歌の歌詞で授業を考えることで、普段の授業で得た知識が自分の中でより実践的なものに昇華された気がする。
- ・先輩方の事前課題や発表、指導案などがほんとに緻密に考えられていて、とても参考になった。

その他、「楽しかった」「ためになった」という感想を多くいただいた。活動頻度も丁度よかった。また、事前課題がやや多かったようだった。

今回の活動では、詩を読み解く上でのポイントを学ぶと同時に、「歌詞」を中心とした詩の授業を構想することができた。学習者にとっても関心の高い「歌詞」は、その豊かな言葉の広がりとともに詩教育の新しい可能性を見せてくれるに違いない。